

健康社会医学

1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	2 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
特任研究員（訪問共同研究員、特別奨励研究員を含む）	10 人	
大学院学生（うち他講座から）	10 人	(0 人)
研究生	3 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	2 人	
合計	29 人	

2 教員の異動状況

尾島 俊之（教授）（H18.4.1～現職）
中村 美詠子（准教授）（H24.4.1～現職）
柴田 陽介（助教）（H 26.4.1～現職）
岡田 栄作（助教）（H 26.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	24 編	(6 編)
そのインパクトファクターの合計	46.69	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	8 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3 編	(3 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	8 編	(8 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T: Thromboembolism as the adverse event of combined oral contraceptives in Japan, Thromb Res, 136(6), 1110-1115, 2015. [2.45]

2. Ozeki K, Noda T, Nakamura M, Ojima T: Weather and headache onset: a large-scale study of headache medicine purchases. *Int J Biometeorol*, 59(4), 447-451, 2015. [3.25]
3. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T: Risks of thromboembolism associated with hormonal contraceptives related to body mass index and aging in Japanese women. *Thromb Res*, 137, 11-16, 2016. [2.45]
4. Shibata Y, Ojima T, Tomata Y, Okada E, Nakamura M, Kawado M, Hashimoto S: Characteristics of pneumonia deaths after an earthquake and tsunami: an ecological study of 5.7 million participants in 131 municipalities, Japan. *BMJ Open*, 6(2), 2016, e009190. [2.27]
5. Mizuta A, Noda T, Nakamura M, Tatsumi A, Ojima T: Class Average Score for Teacher Support and Relief of Depression in Adolescents: A Population Study in Japan. *J Sch Health*, 86(3), 173-180, 2016. [1.43]
6. Tsutsui H, Ojima T, Ozaki N, Kusunoki M, Ishiguro T, Oshida Y: Validation of the comprehensive international classification of functioning, disability and health (ICF) core set for diabetes mellitus in patients with diabetic nephropathy. *Clin Exp Nephrol*, 19(2), 254-263, 2015. [2.02]
7. 水田明子, 古山浩志, 山口久芳, 巽あさみ, 尾島俊之: 中学校教員の多忙感・互恵性及び信頼とメンタルヘルスとの関連. *東海公衆衛生雑誌*, 3(1), 67-72, 2015.

インパクトファクターの小計 [13.87]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kondo N, Saito M, Hikichi H, Aida J, Ojima T, Kondo K, Kawachi I: Relative deprivation in income and mortality by leading causes among older Japanese men and women: AGES cohort study. *J Epidemiol Community Health*, 69(7), 680-685, 2015. [3.50]
2. Nakade M, Takagi D, Suzuki K, Aida J, Ojima T, Kondo K, Hirai H, Kondo N: Influence of socioeconomic status on the association between body mass index and cause-specific mortality among older Japanese adults: The AGES Cohort Study. *Prev Med*, 77, 112-118, 2015. [3.09]
3. Tani Y, Kondo N, Takagi D, Saito M, Hikichi H, Ojima T, Kondo K: Combined effects of eating alone and living alone on unhealthy dietary behaviors, obesity and underweight in older Japanese adults: Results of the JAGES. *Appetite*, 95, 1-8, 2015. [2.69]
4. Tomata Y, Suzuki Y, Kawado M, Yamada H, Murakami Y, Mieno MN, Shibata Y, Ojima T, Hashimoto S, Tsuji I: Long-term impact of the 2011 Great East Japan Earthquake and tsunami on functional disability

- among older people: A 3-year longitudinal comparison of disability prevalence among Japanese municipalities. Soc Sci Med, 147, 296-299, 2015. [2.89]
5. Nagai M, Ohkubo T, Murakami Y, Takashima N, Kadota A, Miyagawa N, Saito Y, Nishi N, Okuda N, Kiyohara Y, Nakagawa H, Nakamura Y, Fujiyoshi A, Abbott RD, Okamura T, Okayama A, Ueshima H, Miura K; NIPPON DATA80/90/2010 Research Group (Ojima T, et al.): Secular trends of the impact of overweight and obesity on hypertension in Japan, 1980-2010. Hypertens Res, 38(11), 790-795, 2015. [2.66]
6. Hisamatsu T, Miura K, Fujiyoshi A, Okamura T, Ohkubo T, Nagasawa SY, Horie M, Okayama A, Ueshima H; NIPPON DATA80 Research Group (Ojima T, et al.): Long-term outcomes associated with prolonged PR interval in the general Japanese population. Int J Cardiol, 184, 291-293, 2015. [4.04]
7. Okuda N, Miura K, Okayama A, Okamura T, Abbott RD, Nishi N, Fujiyoshi A, Kita Y, Nakamura Y, Miyagawa N, Hayakawa T, Ohkubo T, Kiyohara Y, Ueshima H; NIPPON DATA80 Research Group (Ojima T, et al.): Fruit and vegetable intake and mortality from cardiovascular disease in Japan: a 24-year follow-up of the NIPPON DATA80 Study, Eur J Clin Nutr, 69(4), 482-488, 2015. [2.71]
8. Hayakawa N, Okada T, Nomura K, Tsukada T, Nakamura M: Is high job control a risk factor for poor quality of life in workers with high autism spectrum tendencies? A cross-sectional survey at a factory in Japan, J Occup Health, 57(5), 419-426, 2015. [1.11]
9. Sugiura M, Nakamura M, Ogawa K, Ikoma Y, Yano M: High serum carotenoids associated with lower risk for type 2 diabetes among Japanese subjects: Mikkabi prospective cohort study, BMJ Open Diab Res Care, 3, 2015, e000147. [0.00]
10. Sakao Y, Ojima T, Yasuda H, Hashimoto S, Hasegawa T, Iseki K, Tsubakihara Y, Kato A: Serum Creatinine Modifies Associations between Body Mass Index and Mortality and Morbidity in Prevalent Hemodialysis Patients. PLoS One, 11(3), 2016, e0150003. [3.23]
11. Sugiura M, Nakamura M, Ogawa K, Ikoma Y, Yano M: High serum carotenoids associated with lower risk for metabolic syndrome and its components among Japanese subjects: Mikkabi prospective cohort study. Br J Nutr, 114(10), 1674-1682, 2016. [3.45]
12. Sugiura M, Nakamura M, Ogawa K, Ikoma Y, Yano M: High serum carotenoids associated with lower risk for elevated serum alanine aminotransferase among Japanese subjects: Mikkabi prospective cohort study. Br J Nutr, 115, 1462-1469, 2016. [3.45]
13. 赤堀摩弥, 永田順子, 日置朝子, 宇津木志のぶ, 近藤今子, 中村美詠子, 尾島俊之: 地域栄養診断のための食物摂取頻度調査票(短縮版)の開発とその妥当性および再現性の検討. 栄養学雑誌,

73(5), 182-194, 2015.

14. 安藤実里, 嶋田雅子, 若林チヒロ, 新村洋未, 笹尾久美子, 加藤朋子, 島田美喜, 尾島俊之, 柳川洋: 区町村単位の既存統計資料を活用した地域特性の把握 地域診断に備えて. 厚生指標, 62(7), 33-39, 2015.
15. 丹羽治男, 神谷庸成, 尾島俊之: 運動機能低下者割合と人口減少率の関連 中山間へき地における地域相関研究. 地域医学, 29(7), 532-536, 2015.
16. 細川陸也, 伊藤美智予, 近藤克則, 尾島俊之, 宮國康弘, 後藤文枝, 阿部吉晋, 越千明: 「健康交流の家」開設による健康増進効果の検証. 社会医学研究, 33(1), 59-69, 2016.
17. 橋本修二, 川戸美由紀, 尾島俊之, 辻一郎: 国民生活基礎調査における日常生活に影響のある者の割合に対する無回答の影響. 厚生指標, 63(1), 38-41, 2016.

インパクトファクターの小計

[32.82]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之, 小嶋雅代, 坪谷透, 糟谷昌志, 岡田栄作, 柴田陽介, 中村美詠子, 斉藤雅茂, 近藤尚己, 相田潤, 近藤克則: 地域診断指標としての「飲酒をやめた」割合の有用性: JAGES プロジェクト. 日本循環器病予防学会誌, 50(2), 129, 2015.
2. 尾島俊之, 鈴木佳代, 小嶋雅代, 中村美詠子, 岡田栄作, 柴田陽介, 斉藤雅茂, 相田潤, 近藤尚己, 近藤克則: 高齢者における人口減少に関連する要因 JAGES プロジェクト. 東海公衆衛生雑誌, 3(1), 42, 2015.
3. 尾島俊之: 「健康格差の縮小」をどう進めるか 健康格差対策の 7 原則 健康格差対策を<動かす>原則. 日本公衆衛生学雑誌, 62(10 特別付録), 148, 2015.
4. 尾島俊之, 竹田徳則, 鄭丞媛, 村田千代栄, 岡田栄作, 中村美詠子, 斉藤雅茂, 相田潤, 近藤尚己, 近藤克則: 認知症になりにくい地域特性に関する研究. 日本公衆衛生学雑誌, 62(10 特別付録), 367, 2015.
5. 尾島俊之, 中村美詠子, 柴田陽介, 岡田栄作: 健康診断の随時尿を用いた食塩摂取量の推計. 産業衛生学雑誌, 58(1), 38, 2016.
6. 尾島俊之: 疫学教育. J Epidemiol, 26(Suppl 1), 57, 2016.

7. 尾島俊之, 岡田栄作, 中村美詠子, 齊藤雅茂, 近藤尚己, 相田潤, 近藤克則: 高齢者の友人等との交流と要支援等認定割合: JAGES プロジェクト. J Epidemiol, 26(Suppl 1), 110, 2016.

8. 尾島俊之, 原岡智子, 高橋善明, 吉野篤人, 田上豊資, 金谷泰宏, 中瀬克己, 古屋好美: 南海トラフ地震において浜松市で必要となる食料の推計. 日本集団災害医学会誌, 20(3), 458, 2016.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之: 小児医療水準を維持・向上させるための環境整備 ～課題3の到達点. チャイルドヘルス, 18(4), 292-294, 2015.

2. 岡田栄作, 杉田恵子, 櫻木正彦, 尾島俊之, 近藤克則: 福祉の現場から 地域包括ケアシステム構築のための地域診断活用支援プログラム開発の試み. 地域ケアリング, 18(1), 56-60, 2016.

3. 尾島俊之: ポピュレーションアプローチの効果的な進め方. 地域保健, 47(1), 10-15, 2016.

インパクトファクターの小計

[0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之, 藤内修二: 職域をベースとしたソーシャル・キャピタルの醸成と活用. 武藤孝司, 磯博康, 村嶋幸代編集: 公衆衛生領域における連携と協働: 理念から実現に向けて. 日本公衆衛生協会, 2015.

2. 尾島俊之: 保健医療制度と医療資源, 日本における公衆衛生に関連する行政の流れ. 柳川洋, 中村好一編集. 公衆衛生マニュアル2015, 南山堂, 2015.

3. 尾島俊之: 健康寿命の延伸, 健康格差, 他. 梅田珠美, 兼板佳孝, 横山徹爾, 曾根智史, 山縣然太郎, 水嶋春朔, 尾島俊之, 青山旬, 谷原真一, 中山健夫, 吉池信男, 小橋元, 大橋正, 西山裕, 八木晴美, 藤村由起子. 図説 国民衛生の動向 2015/2016. 一般財団法人厚生労働統計協会, 2015.

4. 尾島俊之: 地域における生活と精神 (心) の健康. 岩崎弥生, 渡邊博幸編集: 精神看護学概論・精神保健. メヂカルフレンド, 2015.

5. 尾島俊之：母子保健，成人保健，高齢者保健・介護．柳川洋，簗輪眞澄編著：社会・環境と健康 公衆衛生学 2016 年版．医歯薬出版，2016.

6. 尾島俊之：がん対策．今村知明，大磯義一郎，大嶽浩司，岡田加奈子，岡本悦司，尾崎米厚，小澤温，尾島俊之，兼板佳孝，川上憲人，小風暁，小橋元，須賀万智，高宮有介，西浦博，福永龍繁，村上義孝，安村誠司，柳澤裕之，山本秀樹，吉池信男，横田裕行監修：公衆衛生がみえる 2016-2017. メディックメディア，2016.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 柳川洋，尾島俊之，北村邦夫，中村好一，倉田貞美，近藤今子，巽あさみ，千原泉，坪井聡，中村美詠子，西山慶子，原岡智子，水田明子，渡辺晃紀：保健指導ノート 2016 公衆衛生の現状．日本家族計画協会，2015.

2. 赤井靖宏，尾島俊之，他．第 110 回医師国家試験問題解説，メディックメディア，2015.

（５）症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 糸数公，尾島俊之：2040 年をめざす社会環境整備と関係機関の連携 沖縄県における健康日本 21(第 2 次)の取り組み．保健師ジャーナル，71(5), 422-429, 2015.

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 27 年度
（１）科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）	6 件 (400 万円)
（２）厚生労働科学研究費	6 件 (1,010 万円)
（３）日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	2 件 (40 万円)
（４）科学技術振興機構(JST) による研究助成	0 件 (0 万円)
（５）他政府機関による研究助成	1 件 (231 万円)
（６）財団助成金	2 件 (190 万円)

(7) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(8) 奨学寄附金	0 件	(0 万円)

(1) 科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）

尾島俊之（代表）基盤（C）26460831 ナッジ（Nudge）を用いた健康政策に関する基礎的及び実証的研究 平成26～28年度，210万円（継続）

尾島俊之（分担）基盤（A）25253052 高齢者における健康の社会的決定要因に関する大規模パネル調査，研究代表者 東京大学 近藤尚己，平成25～30年度，10万円（継続）

尾島俊之（分担）基盤研究（B）15KT0007C1「沖縄地域在住高齢者の健康長寿と社会関係資本の関係，研究代表者 琉球大学 白井こころ，平成27～31年度，20万円（新規）

中村美詠子（代表）基盤研究（C）25460744 食に関する社会的弱者対策：フード・インセキュリティに関する探索的研究，平成25～27年度，60万円（継続）

中村美詠子（分担）基盤研究（C）15K00856 音声認識食事調査のための食物シソーラスの開発提言—食事記録コーパスの疫学的活用，研究代表者 名古屋大学 今枝奈保美，平成 27～29 年度，10 万円（新規）

岡田栄作（代表）若手研究（B）26780328 地域包括ケアシステム構築のための地域診断活用支援プログラムの開発，平成26～28年度，90万円（継続）

(2) 厚生労働科学研究費

尾島俊之（代表）特別研究 H27—特別—指定—012 厚生労働科学研究における研究成果のアウトカム評価の指標及び手法の開発に関する研究，平成 27 年度，720 万円（新規）

尾島俊之（分担）H27—循環器等—一般—003 健康増進・栄養政策の推進における国民健康・栄養調査の活用手法の開発，研究代表者 医薬基盤・健康・栄養研究所 古野純典，平成 27～28 年度，160 万円（新規）

尾島俊之（分担）H25—循環器等（生習）—指定—022 社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究 NIPPONDATA80/90/2010，研究代表者 滋賀医科大学 三浦克之，平成 25～29 年度，35 万円（継続）

尾島俊之（分担）H25—次世代—一般—002 「健やか親子 21」の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究，研究代表者 山梨大学 山縣然太郎，平成 25～27 年度，80 万円（継続）

尾島俊之（分担）H25—長寿—一般—003 介護予防を推進する地域づくりを戦略的に進めるための研究，研究代表者 日本福祉大学 近藤克則，平成 25～27 年度，10 万円（継続）

岡田栄作（分担）H25—長寿—一般—003 介護予防を推進する地域づくりを戦略的に進めるための研究，研究代表者 日本福祉大学 近藤克則，平成 25～27 年度，5 万円（継続）

(3) 日本医療研究開発機構（AMED）による研究助成

尾島俊之（受託）長寿科学研究開発事業 931960523 データに基づき地域づくりによる介護予防対策を推進するための研究，研究代表者 東京大学 近藤尚己，平成 26～28 年度，15 万円（継続）

尾島俊之（受託）長寿科学研究開発事業 931960541 地域づくりによる介護予防を推進するための研

究, 研究代表者 千葉大学 近藤克則, 平成 27~29 年度, 25 万円 (新規)

(5) 他政府機関による研究助成

中村美詠子 (分担) (独) 農業・食品産業技術総合研究機構 機能性を持つ農林水産物・食品開発プロジェクト:「 β -クリプトキサンチンの抗メタボ効果等に着目した柑橘及びその加工食品の開発」中課題名「 β -クリプトキサンチンと動脈硬化に関する縦断解析及びヒト介入試験」, 研究代表者 (独) 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所 カンキツ研究領域興津拠点 杉浦実, 平成 25~27 年度, 230.5 万円 (継続)

(6) 財団助成金

柴田陽介 地域在住高齢者の健康増進を目指した就業のあり方に関する研究, 公益社団法人 ふじのくに・地域大学コンソーシアム, 平成 27/9/14~平成 28/2/27, 110 万円
岡田栄作 ファシリテーションと地域診断を活用した介護予防政策支援プログラムの開発, 公益財団法人 三菱財団, 平成 27/10/26~平成 28/11/30, 80 万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	3 件
(3) 学会座長回数	1 件	1 件
(4) 学会開催回数	1 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	18 件
(6) 一般演題発表数	4 件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

尾島俊之, 運営委員, Mixed Methods International Research Association Asian Regional Conference (大阪, 日本), 2015 年 9 月 19-20 日, 約 300 人

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

尾島俊之, Health inequality by social environment and income in Japan, 2015 East Asia Medical and Health Management Summit Forum, 南京 (中国), 2015 年 10 月 24 日

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

4) 国際学会・会議等での座長

尾島俊之, Mixed Methods International Research Association Asian Regional Conference, 大阪, 2015 年 9 月 19-20 日

5) 一般発表

口頭発表

- Ojima T, Myojin T, Tani Y, Sasaki Y, Okada E, Nakamura M, Saito M, Aida J, Kondo N, Kondo K, Hashimoto S, JAGES group: Factors determining activity limitation in Japan: JAGES project panel analyses. 27th REVES(Réseau espérance de vie en santé), June 2-4, 2015, Singapore
- Ojima T, Toki A, Okada E, Shibata Y, Nakamura M, Akiyama Y, Shinohara R, Yamagata Z: Research on support for working prospective mothers, Mixed Methods International Research Association Asian Regional Conference, Sept 19-20, 2015, Osaka

ポスター発表

- Nakamura M, Sugiura M, Ojima T: Longitudinal association of serum carotenoids with pulse wave velocity: the Mikkabi study, 12th Asian Congress of Nutrition, May 2015, Yokohama (Japan).
- Mizuta A, Tatsumi A, Ojima T: Association between economic status and BMI among adolescents in Japan, The 6th International Conference on Community Health Nursing Research, August 2015, Seoul (Korea).

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表

尾島俊之：健康格差対策を＜動かす＞原則，第 74 回日本公衆衛生学会総会，2015 年 11 月，長崎

尾島俊之：企画の趣旨及び疫学教育の全体像，第 26 回日本疫学会学術総会，2016 年 1 月，米子

尾島俊之，原岡智子，高橋善明，吉野篤人，田上豊資，金谷泰宏，中瀬克己，古屋好美：南海トラフ地震において浜松市で必要となる食料の推計，第 21 回日本集団災害医学会総会，2016 年 2 月 27～28 日，山形

4) 座長をした学会名

尾島俊之：第 26 回日本疫学会学術総会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- | | |
|------|---------------------|
| 尾島俊之 | 東海公衆衛生学会（理事長） |
| 尾島俊之 | 日本混合研究法学会（副理事長） |
| 尾島俊之 | 第 21 回国際疫学会総会事務局長 |
| 尾島俊之 | 日本疫学会（理事） |
| 尾島俊之 | 日本疫学会（疫学専門家養成検討委員長） |
| 尾島俊之 | 日本循環器病予防学会（理事） |
| 尾島俊之 | 日本産業衛生学会東海地方会（理事） |
| 尾島俊之 | 日本産業衛生学会（代議員） |
| 尾島俊之 | 日本公衆衛生学会（評議員） |
| 尾島俊之 | 日本栄養改善学会（評議員） |

尾島俊之 日本多施設共同コホート(J-MICC)研究 モニタリング委員（日本疫学会からの推薦）
 尾島俊之 日本集団災害医学会（評議員）
 尾島俊之 全国機関衛生学公衆衛生学教育協議会（卒前カリキュラム委員長）
 尾島俊之 社会医学系専門医協議会（ワーキンググループメンバー）
 中村美詠子 日本疫学会（代議員）
 中村美詠子 日本栄養改善学会（評議員）
 中村美詠子 日本栄養改善学会東海支部会（幹事）
 中村美詠子 東海公衆衛生学会（理事）

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	1 件

（１）国内の英文雑誌等の編集

（２）外国の学術雑誌の編集

尾島俊之 PLOS ONE (Public Library of Science, USA), Academic Editor (Indexed for PubMed, Impact Factor 3.234)

（３）国内外の英文雑誌のレフリー

尾島俊之 2 回 Journal of Epidemiology (Japan)

尾島俊之 1 回 Gastroenterology (US)

尾島俊之 1 回 Sleep and Biological Rhythms (Australia)

尾島俊之 1 回 Geriatrics and Gerontology International (Japan)

中村美詠子 2 回 Journal of Epidemiology (Japan)

中村美詠子 1 回 Environmental Health and Preventive Medicine (Japan)

中村美詠子 1 回 Journal of Obstetrics and Gynaecology Research (Japan)

中村美詠子 1 回 Hypertension Research (Japan)

柴田陽介 1 回 BMJ Open (England)

柴田陽介 1 回 Japan Journal of Lifelong Sport (Japan)

9 共同研究の実施状況

	平成 27 年度
（１）国際共同研究	0 件
（２）国内共同研究	13 件
（３）学内共同研究	1 件

（２）国内共同研究

1. 厚生労働科学研究における研究成果のアウトカム評価の指標及び手法の開発に関する研究, 福井次矢・萱間真美（聖路加国際大学大学院），緒方裕光（国立保健医療科学院），前田秀雄（東京都医学総合研究所），神里彩子（東京大学医科学研究所），満武巨裕（医療経済研究機構）
2. NIPPON DATA 研究, 三浦克之（滋賀医科大学社会医学講座），他

3. JAGES（日本老年学的評価研究）、地域在住高齢者の要介護・認知症発生に関わる要因に関する追跡研究、近藤克則（千葉大学予防医学センター、国立長寿医療研究センター）、他
4. 健康日本21（第二次）の推進に関する研究、橋本修二（藤田保健衛生大学）、辻一郎（東北大学大学院）、他
5. 健康増進・栄養政策の推進における国民健康・栄養調査の活用手法の開発、古野純典（国立健康・栄養研究所）、他
6. 広域大規模災害時における地域保健支援・受援体制構築に関する研究、古屋好美（山梨県中北保健福祉事務所）、中瀬克己（岡山大学大学院）、石井正（東北大学大学院）、金谷泰宏（国立保健医療科学院）、近藤久禎（国立病院機構災害医療センター）、他
7. 三ヶ日町研究、杉浦実（（独）農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所）
8. 高機能みかんジュースに関する介入研究、杉浦実（（独）農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所）
9. 食物選択動機と食事の質に関する調査、福川康之（早稲田大学文学学術院）
10. 職域・学校における自閉症スペクトラムに関する研究、早川徳香（南山大学）
11. 減塩55プログラムに係る食塩摂取量を把握するための調査票の開発と評価、赤堀摩弥他（静岡県健康福祉部健康増進課）
12. 健やか親子21に関する研究、山縣然太郎（山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座）、他
13. 大学生の食生活に関する研究、亀山良子（甲子園大学）

（3）学内共同研究

1. 骨粗鬆症を伴った脊椎変性疾患に対するインプラント手術（及び多椎間脊椎インプラント手術）におけるPTHの骨形成促進作用の臨床研究、整形外科学講座

10 産学共同研究

	平成27年度
産学共同研究	1件

1. 骨粗鬆症を伴った脊椎変性疾患に対するインプラント手術（及び多椎間脊椎インプラント手術）におけるPTHの骨形成促進作用の臨床研究

11 受賞

- （1）国際的な授賞
- （2）外国からの授与
- （3）国内での授賞

岡田栄作 第20回静岡健康・長寿学術フォーラム Poser Presentation Award 平成27年10月

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 厚生労働科学研究における研究成果のアウトカム評価の指標及び手法の開発に関する研究
厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）「厚生労働科学研究における研究成果のアウトカム評価の指標及び手法の開発に関する研究」（研究代表者 浜松医科大学健康社会医学講座 尾島俊

之教授)を実施した。厚生労働科学研究における研究成果のアウトカムを適切に把握するための指標及び手法を提案し、研究成果を総合的かつ長期的に評価する仕組みを検討することが目的である。米国におけるアウトカム評価の調査、行政的アウトカムの評価方法の検討、アウトカム評価の活用方策の検討、地方自治体の視点からの検討、学術的アウトカムの評価方法の検討、経済効果に関する検討を行い、最後にそれらの結果をふまえてアウトカム評価の指標・手法の検討を行った。(尾島俊之、聖路加国際大学大学院、国立保健医療科学院、東京都医学総合研究所、東京大学医科学研究所、医療経済研究機構)

2. JAGES (日本老年学的評価研究) プロジェクト

千葉大学予防医学センター・国立長寿医療研究センターの近藤克則教授が中心となって進めている JAGES (Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究) プロジェクトに、当講座も関わっている。本研究は 1999 年に愛知県の 2 自治体で始まり、2013 年には北海道から沖縄までの 30 自治体 10 万人超の大規模コホートとなり、長期追跡を継続している。(尾島俊之、中村美詠子、岡田栄作、仲村秀子、JAGES プロジェクト、千葉大学予防医学センター、国立長寿医療研究センター、日本福祉大学健康社会研究センター、他)

3. NIPPON DATA 研究

厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策政策研究事業))「社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究: NIPPON DATA 80/90/2010」(研究代表者 滋賀医科大学社会医学講座三浦克之教授)の分担研究として実施している。当講座では、NIPPON DATA 2010 の社会的要因分析、脂質異常症に影響する要因の変化などを担当している。(尾島俊之、中村美詠子、柴田陽介、近藤今子、長幡友実、尾関佳代子、滋賀医科大学、他)

4. 広域大規模災害時における地域保健支援・受援体制構築に関する研究

厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「広域大規模災害時における地域保健支援・受援体制構築に関する研究」を実施している。広域大規模災害時における地域保健活動支援・受援管理体制について、災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)を構築することが目的である。(1) 行政内の管理体制、(2) 域内外連携・支援調整の具体的業務、(3) 収集すべき基本情報と共有・評価体制、(4) 東日本大震災等への対応の経験に基づく短期・中長期的対応を反映する人材育成体制の 4 テーマについて検討を進めている。(尾島俊之、山梨県中北保健福祉事務所、岡山大学大学院、東北大学大学院、国立保健医療科学院、国立病院機構災害医療センター、他)

5. 三ヶ日町研究

コホート研究開始後 10 年の追跡データに基づいて縦断解析を実施し、 β -クリプトキサンチン血中濃度が高い者では 2 型糖尿病、脂質代謝異常症、及び非アルコール性肝機能異常症(血中高 ALT 値)の発症リスクが有意に低下することを報告した。(中村美詠子)

6. 高機能みかんジュースに関する介入研究

β -クリプトキサンチンを強化したみかんジュースを用いた無作為化比較試験後の追跡調査を実施した。今後多変量解析等を実施、報告予定である。(中村美詠子)

7. 日常生活圏域ニーズ調査を用いた地域診断書の開発に関する研究

介護保険事業計画を策定するための「地域診断書」を作成し、自治体が根拠に基づいた政策が行えるよう支援を行う研究を始めた。申込市町村は、全国 36 都道府県 102 介護保険者 117 市町村の協力が得られ、35 万 3655 人から回答を得た。現在はデータベースを整理し、本研究の概要を報告予定である。

(岡田栄作, 尾島俊之, 他)

8. その他の研究

ナッジ (Nudge) を用いた健康政策に関する基礎的及び実証的研究, 食に関する社会的弱者対策: フード・インセキュリティに関する探索的研究, 健やか親子21に関する研究などを実施した。

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

1. 厚生労働科学研究における研究成果のアウトカム評価の指標及び手法の開発に関する研究は, 厚生労働省の依頼による指定研究として実施した。今後の厚生労働科学研究のアウトカム評価のあり方の基礎資料となる研究である。米国国立衛生研究所 (NIH, National Institute of Health) や米国保健医療向上研究機構 (AHRQ, Agency for HealthCare Research and Quality) での取り組みに関する訪問調査等を実施した。AHRQ においても同様の取り組みが始まっており, 国際的にも萌芽しつつあるトピックである。
2. JAGES プロジェクトは, 公衆衛生学のみならず, 社会学, 経済学, 地理学などの研究者が名を連ねるなど学際的である。また, 所得や教育と健康の関連についても検討を加えるなど独創的な視点から研究が進められている。一般高齢者 10 万人以上を対象にした社会疫学に関するコホート研究は, 国内外でも貴重である。この一環として, 米国ハーバード大学や, イギリスとの共同研究も行っている。この研究は, 根拠に基づく保健医療政策立案に向け, 基礎的データの提示を目標としているが, 政策に直結するこのような実証研究への期待は今後ますます高まると思われ, 研究の継続性, 政策への応用性が見込まれる。
3. 三ヶ日町研究は, β クリプトキサンチン摂取量の多いみかん産地住民を対象として, 血清 β クリプトキサンチンを評価しているコホート研究であり国際的にも他に見当たらない。さらに β クリプトキサンチンの効果を検証するための新たな介入試験を開始し, 研究を発展させている。

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 「県産温州ミカン「保健機能」表示」中日新聞 2016 年 2 月 25 日
2. 「生活習慣病予防にミカン色素効果か」静岡新聞 2016 年 3 月 23 日
3. 「ミカン, 糖尿病予防に効果 生活習慣病のリスク抑制」朝日新聞 DIGITAL 2016 年 3 月 24 日
4. 「ミカンで生活習慣病のリスクが下がる」テレビ静岡「てっぺん静岡」2016 年 3 月 28 日
5. 【人ズーム】薬剤師視点の論文で医学博士号取得-浜松医科大学大学院, 杏林堂薬局 尾関佳代子さん 薬事日報 2016 年 3 月 30 日